

平成 30 年度 北九州市 CKD 予防連携システムに係る意見交換会 議事要旨

- 1 日 時 平成 31 年 3 月 18 日 (月) 19:30～20:30
- 2 開催場所 北九州市総合保健福祉センター 61 会議室
- 3 出席者 [構成員・50 音順] 今渡構成員、岡本構成員、海津構成員、金井構成員、益田構成員
[事務局] 保健福祉局医務監、保健福祉局健康医療部健康推進課長ほか
- 4 議 題
 - I 本市の CKD 予防の取組について
 - II 本市の CKD 予防連携システムについて
 - III 保健指導使用資料・パンフレットの改訂について
 - IV その他の意見等
- 5 議題概要
 - I 議題資料により保健福祉局から説明。
<主な内容・ご意見>
 - ・ 「我が国の慢性透析療法の現状」によると、透析導入者の原疾患割合の推移において「糖尿病性腎症」の伸びは鈍化する一方、「腎硬化症」の割合が増えてきており、糖尿病のみでなく高齢化や高血圧等の影響が考えられる。
 - ・ 本市は高齢化率が高く、メタボの該当者や予備群、血圧、血糖、脂質の有所見割合が全国に比べても高い。
 - ・ 29 年度の本市国保特定健診の受診率は約 35%。非メタボの方には優先度に応じ保健指導、電話での受診勧奨等の介入を行政が行い、改善、維持、といった成果が出ている。
 - ・ 新規透析の導入は国保においては抑えられているようだが、後期は少し増加傾向である。年齢別推移では、大きな変動は見られない。
 - ・ 国保の透析の医療費は減少、一人当たり医療費でも減少している。
 - ・ 糖尿病の方は eGFR だけでなく尿蛋白に気を付けるよう、医療機関や住民に周知し、保健指導従事者も十分理解しておく必要がある。
 - II 本市の CKD 予防連携システムについて
議題資料により保健福祉局から説明。
<主な内容・意見>
 - ・ システム運用状況は、帳票の返信数により評価しており、二次医療機関(腎専門医)まで紹介を要すると思われる方は推計で 2,500 人程度となる。運用率としては、8%弱である。

- ・ かかりつけ医から腎専門医に紹介されて受診されていても、CKD 予防連携システムの帳票を持ってこられる方は少ない。
- ・ かかりつけ医は様々な疾患を診ているため、CKD 予防連携の帳票を活用できていないのではないかと。
- ・ CKD 予防連携システムの帳票を活用していなくても、かかりつけ医はデータが悪い方については二次医療機関（腎専門医）に紹介していると思う。
- ・ 二次医療機関（腎専門医）に帳票を置き、帳票には特定健診受診者であることがわかるよう表記してもらい、必ず返してもらうよう徹底してはどうか。

III 保健指導使用資料・パンフレットの改訂について

議題資料により保健福祉局から説明。

<主な内容・意見>

- ・ 特定健診受診後に区役所・市役所の保健師、栄養士、看護師が受診勧奨をする際に使用する様式の「CKD 重症度分類表」を、かかりつけ医から腎臓専門医・腎臓専門医療機関への紹介基準と同様に変更する。
- ・ 健診後の結果返しの際に使用するパンフレットについて、現行のパンフレットの統計データ等の数字を最新にする他に、郵送は裏表1枚で簡易なものを作成する。
- ・ 監修は「北九州市 CKD 予防連携システム意見交換会」とする。

IV その他の意見等

- ・ 腎専門医名簿について、腎専門医が外来にいる曜日等をリストに記載する。
- ・ CKD 予防連携システムの流れを説明する資料に、行政の保健師等からの紹介があることもわかるようにする。
- ・ お薬手帳に貼る「CKD 重症度分類表」を作製し、配布先は腎専門にというご意見は今後、検討していく。

次回予定 2019年度 1回